

細胞診単独受託、開始のお知らせ

ケーナインラボでは、これまで遺伝子検査のセットとして細胞診を受託してきました。しかし、細胞診で確定診断が得られた場合に遺伝子検査を利用したいなど、細胞診の単独での依頼希望が多く寄せられていました。そこで、2013年6月より、細胞診の単独受託を開始します。リンパ系腫瘍や肥満細胞腫だけでなく、他の疾患の評価も行います。

検査費用

1 部位（骨髄以外の細胞）： お問い合わせ下さい。
骨髄塗抹： 他の部位より割増となります。
お問い合わせ下さい。



* 骨髄塗抹の費用が高い理由

骨髄を評価する場合、非常に多種類の構成細胞(下記参照)を分画し、それぞれの細胞群について分化・成熟異常の有無、形態異常の有無、無効造血の有無、腫瘍性増殖の有無を評価します。したがって、**他の組織に比較し評価に時間と手間を要します。**

(骨髄を構成する細胞)

- ◇赤芽球系細胞:原赤芽球、前赤芽球、好塩基性赤芽球、多染性赤芽球、後赤芽球、多染性赤血球
- ◇顆粒球系細胞:骨髄芽球、単芽球、前骨髄球、前単球、3系統の骨髄球、3系統の後骨髄球、3系統の桿状核球、3系統の分葉核球
- ◇巨核球系細胞:巨核芽球、前巨核球、巨核球、血小板
- ◇その他の骨髄構成細胞:リンパ球、プラズマ細胞、マクロファージ、肥満細胞など
- ◇骨髄以外に由来する細胞

* 細胞診の単独評価後に遺伝子検査を行った場合

細胞診断単独の費用に遺伝子検査の費用が加算されます。**セット検査は適用されません**ので、ご注意ください。

検査に必要なもの



① 染色・封入済細胞塗抹標本

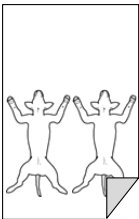
標本は**ギムザ染色法**、**ライトギムザ染色法**、**メイ・ギムザ染色法**で染色して下さい。ヘマカラー等のクイック染色でも診断可能ですが、診断精度が低下し、疾患によっては診断困難となることがあります。特に**骨髄塗抹の細胞診では、クイック染色での診断はできません。**

標本を**ビオライト**もしくは**マリノール**により封入して下さい。封入後は標本を十分乾燥させてケースに入れて下さい。乾燥が足りない場合にはケースが溶け、標本が取り出せなくなることがあります。

*** 病理組織学的検査ではありませんので、組織の切片の評価はできません。**

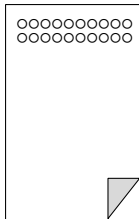
② 細胞診・病理診断依頼表

患者様のプロフィール、臨床症状などを書いていただきます。情報が不足した場合には診断精度が低下する場合があります。**最新の依頼表がホームページよりダウンロードできますので、ご利用下さい。**



③ ケーナインラボ検査依頼表

病院様の情報、検査項目を書いていただきます。情報が不足した場合、期限までにご報告できない場合があります。**最新の依頼表がホームページよりダウンロード出来ますので、ご利用下さい。**



報告日数

検体受け取り後、**5~7営業日**

* 至急対応はできません。

株式会社 ケーナインラボ

〒184-0012 東京都小金井市中町2-24-16農工大・多摩小金井ベンチャーポート302号
電話:042-401-2291(代表)、042-401-2294(検査室)
FAX:042-382-7384(共通)
E-mail:kensa@canine-lab.jp

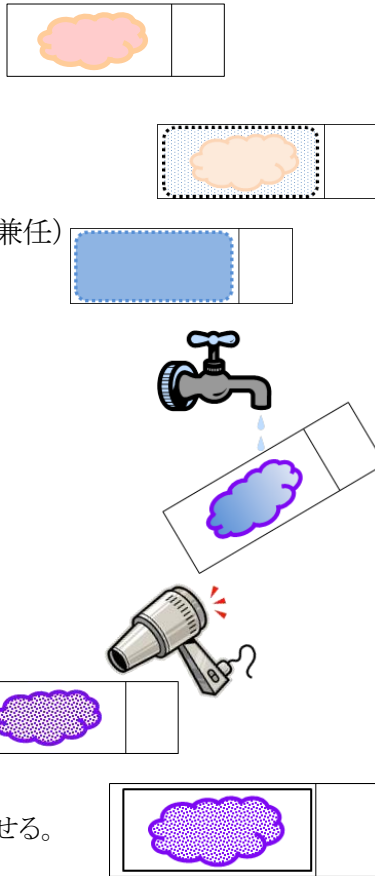


診断医

遺伝子検査のセットの細胞診では、複数の診断医が評価してきましたが、細胞診の単独受託は獣医診断支援サービス(VDSS)名輪裕生が全てを評価します。

(経歴)

- 1997 日本獣医生命科学大学(旧 日本獣医畜産大学)卒業
在学中は獣医臨床病理学教室所属
同大学付属病院 全科研修医就任
- 2000 アニマルウェルネスセンター内科常勤勤務医就任
日本獣医生命科学大学 嘱託実習講師就任
- 2003 診断支援サービス開始
- 2007 日本動物高度医療センター(JARMeC)内科常勤勤務医就任(臨床検査部兼任)
- 2009 VDSS獣医診断支援サービス設立
- 現在 VDSS代表
日本動物高度医療センター(JARMeC)嘱託細胞診断医
株式会社ケーナインラボ 嘱託細胞診断医



細胞塗抹標本の染色法

ギムザ染色法(推奨)

- 1) 風乾.....細胞を塗抹したら直ぐに風乾する(温風は禁忌)。
- 2) メタノール固定(5分).....スライド標本にメタノールを満載する。
- 3) 染色(15~30分).....ギムザ希釈液(緩衝液で20倍に希釈)を載せる。
- 4) 水洗(15~20秒).....水道水を塗抹面に直接かける(がんがん洗う)。
- 5) 乾燥.....ドライヤーを使い直ぐに乾燥させる。
- 6) 封入.....ビオライトもしくはマリノールにより封入し、十分に乾燥させる。

ライト・ギムザ染色法(推奨)

- 1) 風乾.....細胞を塗抹したら直ぐに風乾する(温風は禁忌)。
- 2) メタノール固定(5分).....スライド標本にメタノールを満載する。
- 3) 染色(2分).....メタノールを捨て、ライト・ギムザ液を載せる。
- 4) 緩衝液/バッファー(15分).....染色液を捨てずに染色液と同量の緩衝液を載せる。液に息を吹きかけて混合する。
- 5) 水洗(15~20秒).....水道水を塗抹面に直接かける(がんがん洗う)。
- 6) 乾燥.....ドライヤーを使い直ぐに乾燥させる。
- 7) 封入.....ビオライトもしくはマリノールにより封入し、十分に乾燥させる。

メイ・ギムザ染色法(推奨)

- 1) 風乾.....細胞を塗抹したら直ぐに風乾する(温風は禁忌)。
- 2) メタノール固定(5分).....スライド標本にメタノールを満載する。
- 3) メイグリュンワルド液(2分).....メタノールを捨て、メイグリュンワルド液を10~15滴載せる。
- 4) 緩衝液/バッファー(5分).....メイグリュンワルド液を捨てずに同量の緩衝液を載せる。液に息を吹きかけて混合する。
- 5) ギムザ希釈液(15分).....ギムザ希釈液(緩衝液で20倍に希釈)でスライドを洗浄し、さらにギムザ希釈液を載せる。
- 6) 水洗(15~20秒).....水道水を塗抹面に直接かける(がんがん洗う)。
- 7) 乾燥.....ドライヤーを使い直ぐに乾燥させる。
- 8) 封入.....ビオライトもしくはマリノールにより封入し、十分に乾燥させる。

*これらの染色法は一般的な方法となります。染色する際には染色液のプロダクトシートに従って下さい。また、塗抹の厚さによっては、染色時間を長くする必要があります。適宜、調整して下さい。